



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月15日

1. 2020年3月期 第2四半期業績 および通期修正業績予想

常務取締役 佐藤 和弘

2. 中期経営計画の進捗と見通し

代表取締役社長 山木 一彦

1. 2020年3月期 第2四半期業績
および通期修正業績予想

2. 中期経営計画の進捗と見通し

連結損益計算書



**第2四半期売上高としては過去最高
各段階利益も業績予想を上回り、増収増益**

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期	前期比		業績予想との比較	
	第2四半期	第2四半期	増減	増減率	第2四半期	達成率
売上高	43,801	48,336	+ 4,535	+ 10.4%	44,700	108.1%
営業利益	2,306 5.3%	3,375 7.0%	+ 1,068	+ 46.3%	2,900	116.4%
経常利益	2,150 4.9%	3,078 6.4%	+ 928	+ 43.2%	2,700	114.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 ※	1,555 3.6%	2,105 4.4%	+ 549	+ 35.3%	1,800	117.0%

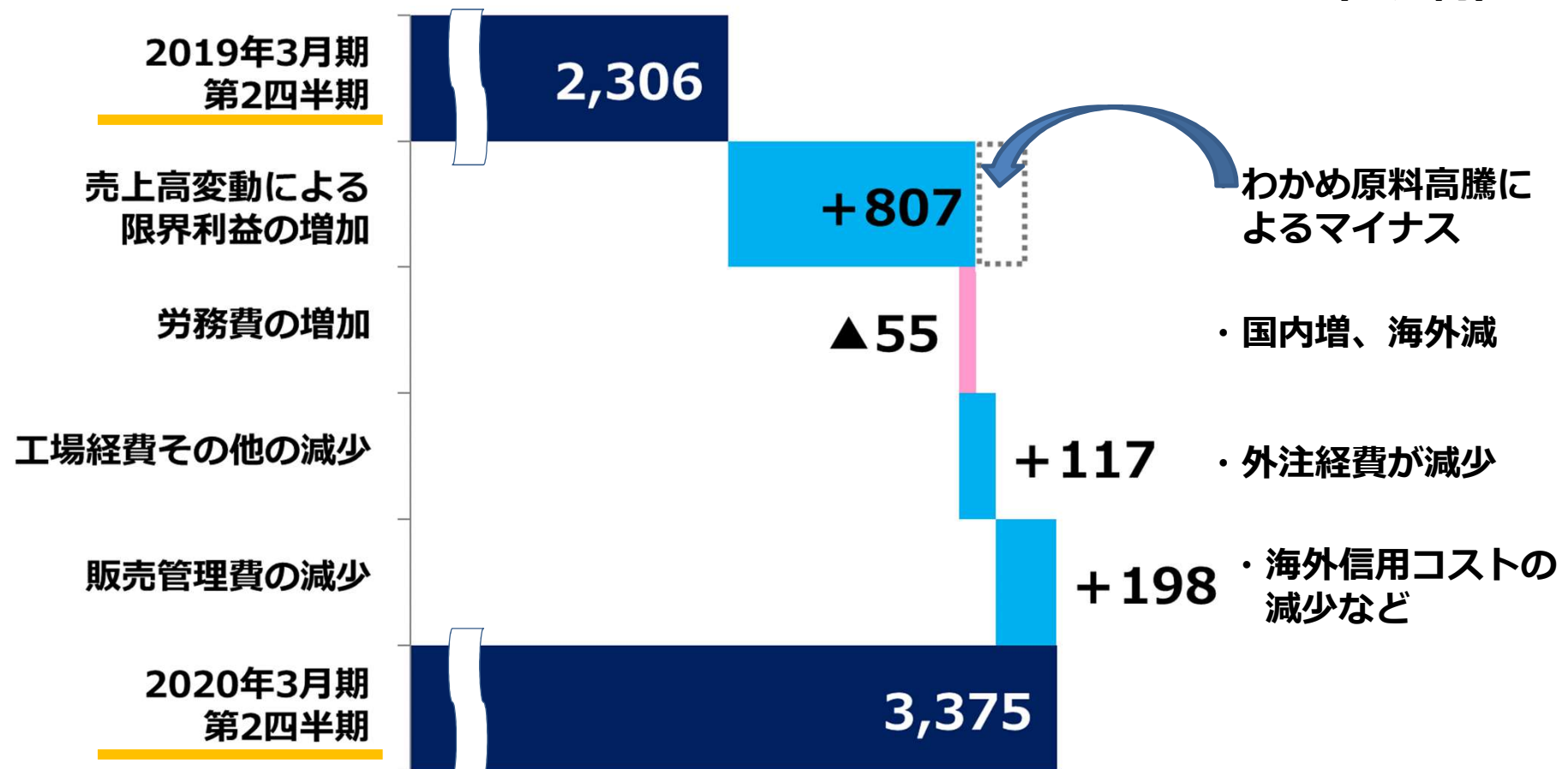
※第2四半期純利益は2年ぶりに既往ピーク更新

営業利益の前年同期比増減要因



海外売上高の増加と販売管理費の減少により増益

(百万円)



セグメント別売上高と営業利益



国内食品事業はドレッシングが苦戦、海外事業は黒字回復

(百万円)	売上高				営業利益			
	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前期比		2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
国内食品事業	29,466	28,917	▲ 549	▲ 1.9%	2,875 9.8%	2,464 8.5%	▲ 410	▲ 14.3%
家庭用食品	7,420	6,718	▲ 702	▲ 9.5%				
業務用食品	10,882	10,725	▲ 156	▲ 1.4%				
加工食品用原料等	11,163	11,473	+ 309	+ 2.8%				
国内化成品その他事業	3,320	3,279	▲ 40	▲ 1.2%	361 10.9%	343 10.5%	▲ 17	▲ 5.0%
海外事業	11,685	16,885	+ 5,200	+ 44.5%	▲ 687 -	772 4.6%	+ 1,460	-
改良剤事業	7,397	7,666	+ 268	+ 3.6%				
食品事業	4,287	9,218	+ 4,931	+ 115.0%				
調整額（セグメント間消去）	▲ 670	▲ 745	▲ 75	-	▲ 242	▲ 205	+ 10	-
合計	43,801	48,336	+ 4,535	+ 10.4%	2,306 5.3%	3,375 7.0%	+ 1,068	+ 46.3%

連結貸借対照表



前期末から大きな変動なし

(百万円)	2019年3月期 期末	2020年3月期 第2四半期	増減	(為替影響)
流動資産	59,018	55,993	▲ 3,024	(▲627)
現金及び預金	16,587	13,967	▲ 2,620	(▲187)
受取手形及び売掛金	24,029	22,889	▲ 1,140	(▲211)
たな卸資産	18,330	18,431	+ 101	(▲243)
その他	70	704	+ 634	(+15)
固定資産	52,373	51,498	▲ 874	(▲347)
有形固定資産	27,867	28,367	+ 499	(▲330)
無形固定資産	656	649	▲ 6	(▲4)
投資その他の資産	23,849	22,481	▲ 1,367	(▲11)
資産合計	111,392	107,492	▲ 3,899	(▲974)
負債	49,767	45,111	▲ 4,656	(▲300)
流動負債	28,827	25,698	▲ 3,129	(▲293)
固定負債	20,940	19,413	▲ 1,526	(▲6)
うち、自己株取得による長期借入金	(15,000)	(14,000)	(▲1,000)	-
純資産	61,624	62,380	+ 756	(▲674)
株主資本	52,826	54,236	+ 1,409	(▲12)
その他の包括利益累計額	8,315	7,679	▲ 635	(▲635)
非支配株主持分	482	464	▲ 18	(▲25)
負債純資産合計	111,392	107,492	▲ 3,899	(▲974)
自己資本比率	54.9%	57.6%		

2020年3月期 第2四半期のセグメント別ポイント（1/2）



国内食品事業

減収減益※

売上面では家庭用食品が大きく苦戦、業務用食品も前年割れ
加工食品用原料等は堅調に推移したが全体では減収
営業利益も前年を下回る

家庭用食品

リニューアルを行った「リケンのノンオイル」と、「わかめスープ」が減収
「ふえるわかめちゃん®」は原料高も好調に推移

業務用食品

外食・給食ルートは冷凍海藻が伸長したがドレッシングと乾燥わかめが減少
加工食品メーカールートは前年好調の反動減

加工食品用原料等

食品用改良剤(製菓・乳業等)が堅調に推移
マイクロカプセルが大きく伸長

国内化成品 その他事業

減収減益※

売上面では化粧品向けの新規提案が拡大したものの
日本国内の取引先が受けた米中貿易摩擦、中国の景気減速の
影響で若干減収
営業利益も売上減に伴って前年を下回る



海外事業

増収増益※

海外改良剤・青島福生とも増収
特に青島福生が中国国内向けに大幅に伸長
営業利益は改良剤で利益率改善、青島福生は黒字回復

海外改良剤

前年の下期からの収益回復基調が持続
新規取引の獲得と高付加価値の製剤売上増により増収増益

青島福生食品

これまで取り組んできた中国国内販売ルート開拓などの事業構造改革により
売上高が大幅に伸長
利益率に課題は残るが、粗利と回転率の改善、信用コストの正常化などにより
営業黒字を回復

2020年3月期 通期修正業績予想



海外事業の売上増などを考慮し、業績予想を修正

(百万円)	2020年3月期 修正予想	当初予想比	前期比	
		増減	増減	増減率
売上高	97,000	+ 3,000	+ 7,111	+ 7.9%
国内食品事業	59,000	▲ 1,000	+ 402	+ 0.7%
国内化成品その他事業	6,800	0	+ 113	+ 1.7%
海外事業	32,500	+ 4,000	+ 6,386	+ 24.5%
営業利益	6,800 7.0%	+ 0	+ 1,747	+ 34.6%
国内食品事業	5,300	▲ 200	▲ 468	▲ 8.1%
国内化成品その他事業	700	0	▲ 32	▲ 4.5%
海外事業	1,200	+ 100	+ 2,261	-
調整額（セグメント間消去）	▲ 400	+ 100	▲ 13	-
経常利益	6,400 6.6%	0	+ 1,539	+ 31.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,600 4.7%	0	+ 650	+ 16.5%

	予想
ROE	7.4%

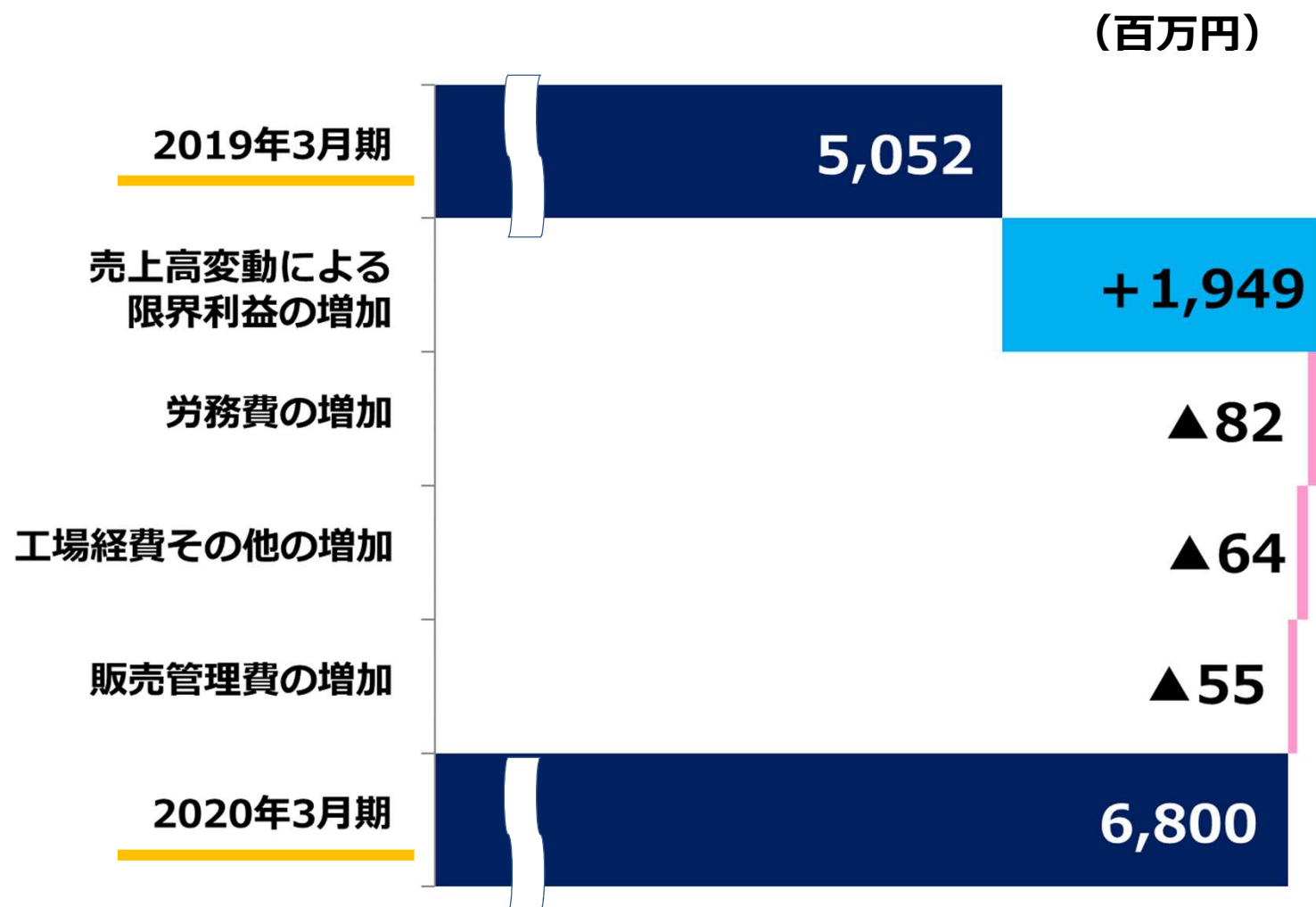
	予想
1株当たり 配当金	81円
配当性向	28.9%

1株当たり配当金推移

2018年3月期 71円

2019年3月期 81円

2020年3月期 営業利益の増減要因予想



1. 2020年3月期 第2四半期業績
および通期修正業績予想

2. 中期経営計画の進捗と見通し

持続的成長と競争力のある企業を目指す

新領域への挑戦

独自の技術力 ・ 開発力の強化

● 国内事業

成熟市場

～さらなる収益基盤の強化～

● 海外事業

拡大市場

～構造基盤の強化による
成長エンジンの加速化～

天然原料の有効活用

技術・製品をベースにした
アプリケーション提案

抽出・精製・濃縮技術

CSR経営の推進

国内食品事業



家庭用食品 売上高 135億円

上期実績	67億円	前年同期比	90.5%
下期予想	67億円	前年同期比	104.0%

■ ドレッシング

- 「リケンのノンオイル」積極的なプロモーションを継続
おいしさと汎用性を最大限に訴求



■ 海藻商品

- 「ふえるわかめちゃん®」は国内産への注力と韓国産の拡大を図る
- 「わかめスープ」は人気声優を起用し顧客層開拓
- 海藻の魅力を広げるスープ3品と期間限定品を発売



海藻スープシリーズ3品（8月発売）

生姜わかめスープ（期間限定）

■ 調味料

- 「素材力だし®」認知度アップの施策強化
医療機関やフィットネスクラブでのサンプリング
全国展開の料理教室とのタイアップ

業務用食品 売上高 225億円

上期実績	107億円	前年同期比	98.6%
下期予想	117億円	前年同期比	108.5%

■ 外食・給食向け等

- 「笑顔でランチ®」ドレッシング（学校給食用アレルギー配慮商品）の成長促進
- 「冷凍海藻」のメニュー型商品の強化



笑顔でランチコールスロー（8月発売）



冷凍海藻 わかめ唐揚げ（6月発売）

■ 加工食品メーカー向け・コンビニ向け等

- 大手取引先へ調味料・乾燥わかめの拡販
- ビタミンミックスは栄養強化市場に注力
- 拡大する中食（総菜）市場の変化に対応し機能性調味料※の提案を継続



※おいしさと機能をあわせ持つ調味料

生活者のライフスタイルの多様化
食品ロスへの意識向上など

2018年総菜市場規模：10兆2,518億円（前年比102%）
日本総菜協会「総菜白書」

国内食品事業

国内化成品その他事業



加工食品用原料等 売上高 230億円

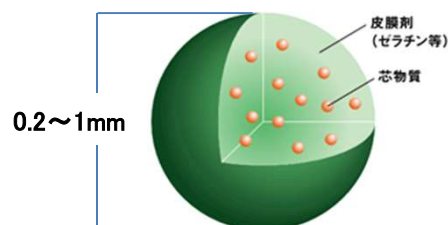
上期実績	114億円	前年同期比	102.8%
下期予想	115億円	前年同期比	98.0%

■加工食品用原料

- ・重点業界（パン・豆腐・製菓等）の主要顧客への取り組み強化
 - ・A&Iセンター※を活用し、新たな価値を提供
- ※詳細は17-18ページ

■ヘルスケア

- ・機能性表示食品の強化:天然色素由来クロセチン
2つの機能性で外販を強化
- ※詳細は19ページ
- ・医薬品用途のマイクロカプセルは需要拡大に対応し設備増強に着手



リケンのマイクロカプセル「リケビーズ」

国内化成品その他事業 売上高 68億円

上期実績	32億円	前年同期比	98.8%
下期予想	35億円	前年同期比	104.6%

■植物由来の強みを生かし、既存・新規両面での拡大を図る

- ・既存市場の基盤強化
農業用ハウスフィルム・食品用ラップ・食品容器
などへのマスターバッチ※製品の拡売



※マスターバッチ
各種樹脂に防曇剤・帯電防止剤等の化成品製剤を効率的に配合する、ペレット状の製品

- ・環境問題への対応
植物原料スクラブ剤を化粧品などの新規市場へ提案
生分解性プラスチック向けの改良剤は市場拡大に合わせた伸長を見込む

※新領域への挑戦は20ページ

海外事業 [改良剤・青島福生食品]



海外事業 売上高 325億円

上期実績 168億円

前年同期比 144.5%

下期予想 156億円

前年同期比 108.2%

海外改良剤

■重点エリア・重点市場に集中

- ・成長市場である東南アジア・中国エリアへの集中を継続
- ・ベーカリー・冷食を中心とした重点市場に注力
不採算品目の見直しと高付加価値品により
収益拡大を図る
- ・食品は海外アプリケーションセンターと
A&Iセンターの連携、化成品は7月より稼働
の上海化成品アプリケーションセンターの
活用により開発力を強化
- ・継続した生産技術向上による効率化を推進



7月開設の上海化成品技術センター
(アプリケーションセンター)

青島福生食品

■財務改善と事業構造改革の加速による収益力向上

- ・採算重視の視点から欧州向け取引の一部見直しと
中国国内向け販売への注力を継続
- ・機械化等による生産コストの低減
- ・中長期的に野菜事業も合わせて強化し、
バランスのとれた事業構造を目指す



技術・開発～新領域への挑戦～ ①-1 食品用改良剤



～独自の技術をベースとした開発力を強化し、社会に貢献していく～

オープンイノベーションを活性化し、新たな価値を創造

●アプリケーション&イノベーションセンター（A&Iセンター）10月稼働開始

食品用改良剤の国内研究開発部門を集約

草加

大阪

千葉

研究
開発

お客様
(加工食品メーカー様)



営業



専門分野の壁を越えた
コミュニケーション

◀ フリーアドレス



お客様との共同試作

◀ 業界別の試作室を完備



環境への配慮

◀ ソーラー発電・屋上緑化
生ごみ処理機の設定

技術・開発～新領域への挑戦～ ①-2 食品用改良剤



～独自の技術をベースとした開発力を強化し、社会に貢献していく～

●アプリケーション&イノベーションセンター（A&Iセンター）

海外市場への提案強化

最新技術やマーケット情報を海外のスタッフやお客様へ発信



◀ オフィス同士を常時接続



11/8(金) メディア向けお披露目会の様子



▲ 麺ほぐれ効果のデモンストレーション

▶ さらに詳しくは当社HP内のA&Iセンター特設ページをご覧ください



技術・開発～新領域への挑戦～ ② ヘルスケア製品



～独自の技術をベースとした開発力を強化し、社会に貢献していく～

色素に含まれる成分の健康機能に着目

● 1つの成分で2つの機能性表示を実現した「クロセチン」

- ・「良質な眠り」と「目のピント調節」をサポート



クロセチンとは：
クチナシの果実（左図）やサフランに
含まれる色素成分

● 骨の健康維持をサポートする「パプリカロテン」

- ・機能性についての研究が進み、提案を強化



パプリカから
健康に役立つカロテノイドを抽出

- 機能性を強みに、健康食品メーカーに原料として拡売

- クロセチンは自社通販でも販売中



自社通販専用商品「クロセチン」

技術・開発～新領域への挑戦～ ③ 化成品用改良剤



～独自の技術をベースとした開発力を強化し、社会に貢献していく～

今期実績化

● 食品用改良剤を応用した防虫提案で農業分野へ展開

- ・ 食品素材を使用した安心安全な忌避剤^{きひ}
- ・ 虫が寄ってこないため植物の病気を予防



トマト栽培での防虫

プラスチック・化粧品等で市場拡大

● 植物由来の化成品用改良剤提案でCO₂削減に貢献

- ・ 「バイオマスマーク」認証の可塑剤^{かそ}※1、増粘剤※2など

※1 可塑剤 硬いプラスチック塊を柔らかくし、ビニール袋やラップなどさまざまなものに加工できるようにする改良剤

※2 増粘剤 シャンプーを手からこぼれにくくするためなど、粘度を与える改良剤



植物由来を表す
「バイオマスマーク」

事業を通じた社会的課題の解決①



食の 安全志向

科学的な
産地判別技術
(特許取得)



安心安全な製品の提供
産地ブランドの向上

アレルギー
配慮製品



学校給食における
栄養教諭のニーズに対応

健康志向

食塩無添加



素材本来の風味にこだわり
手軽に美味しく減塩

サステナビリティ

食品用改良剤による
おいしさ持続



「おいしさ長持ち」と「食の安全」の
両面から食品ロス削減にも貢献

植物原料スクラブ剤の
洗顔料への展開



マイクロプラスチック排出量の
削減

RSPO※認証油の調達

※RSPO: 持続可能なパーム油の
生産と利用を促進する非営利組織

森林や生物多様性の保全など
環境・社会への配慮

事業を通じた社会的課題の解決②



ゆりあげファクトリーの「国内わかめ産業の課題」に対する取り組み



◆ゆりあげファクトリー

しゅびよう

種苗（わかめの“苗”）の生産・研究を通じて、海藻養殖産業の安定化と支援を行う（2017年7月稼働開始）

※「ゆりあげファクトリー」は、宮城県名取市閑上地区の復興と地域水産業の活性化を目的とした名取市の水産業協同利用施設復興整備事業のひとつです。

国内わかめ産業の課題

環境問題

- ◎気候変動等による生産量の不安定化

労働環境 人出不足

- ◎生産者の高齢化
- ◎後継者の不足
- ◎作業負荷

震災復興

- ◎わかめ主産地の三陸～地域産業活性化の必要性

わかめ種苗の 優良株選抜と育成条件の最適化

- ◎高生長株の選抜で**収量アップ**
- ◎早生株・晩生株の選抜で
将来的に二期作を実現
⇒収穫時期分散による**労働負荷低減**
- ◎わかめ製品の前処理加工生産
- ◎海藻の基礎研究
⇒**地域の発展**へ

2020年3月期 事業戦略のまとめ



国内事業

- **家庭用・業務用：①ドレッシングのブランド価値再構築**
家庭用：リニューアルを契機に汎用性訴求と収益構造の改善
業務用：アレルゲン配慮商品などの付加価値品を拡大
- **②海藻商品の拡大**
国内産原料高に対応した韓国産の強化、新カテゴリー商品の拡大
- **加工食品用原料等：ベストソリューションパートナーとしての地位確立**
A&Iセンター活用による開発力強化
- **国内化成品その他：既存事業の基盤強化と新市場への提案**

海外事業

- **改良剤：東南アジア・中国エリアへの“選択と集中”を継続**
高付加価値の製剤への注力
- **青島福生食品：事業構造改革による収益力の向上**
中国国内販売に道筋、付加価値品の拡大を図る

**中期経営計画の中間年度として
既存分野の強化と新領域への挑戦＝現中計施策 を着実に推進**

中期経営計画の業績見通し

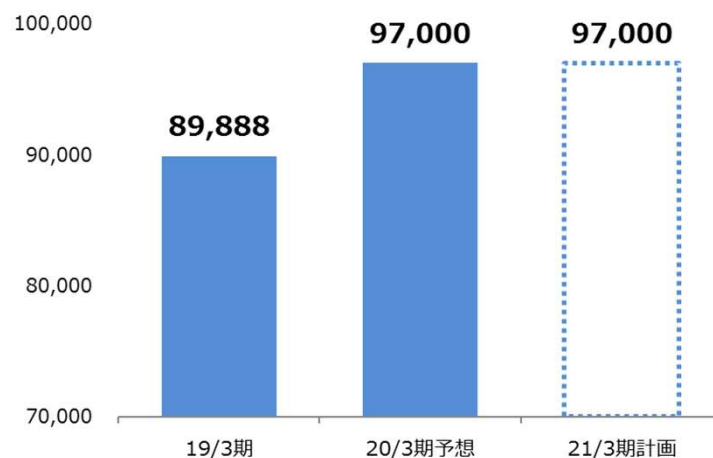


中計最終年度の達成を目指す

(百万円)	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期	
	実績	%	予想	%	当初計画	%
売上高	89,888		97,000		97,000	
営業利益	5,052	5.6%	6,800	7.0%	8,000	8.2%
経常利益	4,860	5.4%	6,400	6.6%	7,700	7.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,949	4.4%	4,600	4.7%	5,400	5.7%

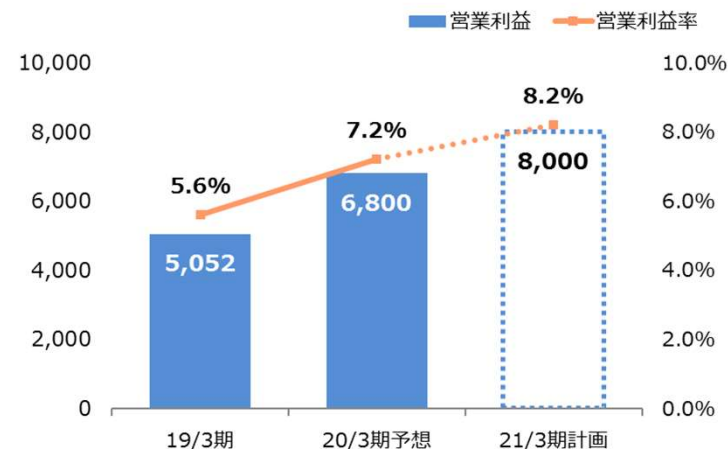
■ 売上高の推移

(百万円)



■ 営業利益の推移

(百万円)



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。

それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものです。

実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部 広報・IR室
相原・井上
TEL : 03-5275-5835

資料

連結キャッシュ・フロー計算書



現金及び現金同等物の期末残高129億円
期首残高から22億円減少

(百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期
現金及び現金同等物の 期首残高	14,488	15,157
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,153	1,874
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,464	▲ 1,926
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 801	▲ 2,121
現金及び現金同等物に係る 換算差額	▲ 27	▲ 62
現金及び現金同等物の 期末残高	14,348	12,921

営業CF

税金等調整前純利益	3,019
減価償却費	1,948
売掛債権の減少	866
仕入債務の増加	▲ 1,757
法人税等の支払	▲ 897

投資CF

有形固定資産の取得	▲ 2,850
投資有価証券の償還	600

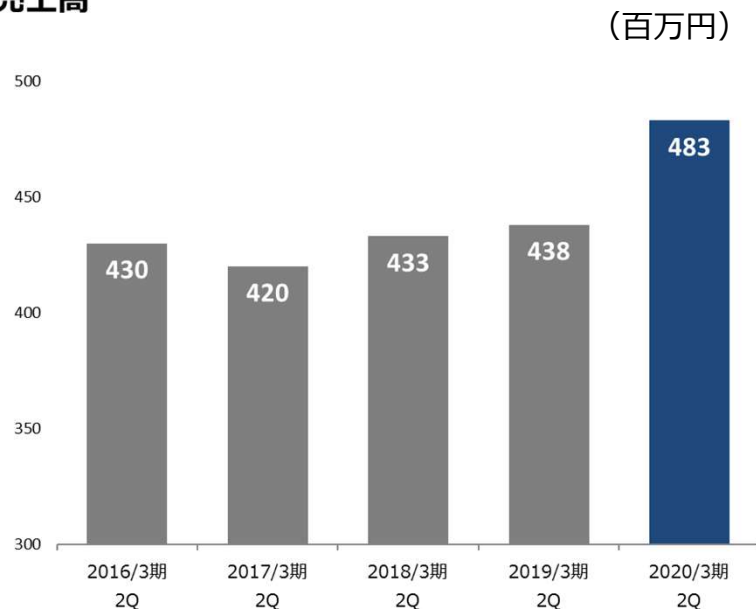
財務CF

短期借入金の減少	▲ 372
長期借入金の返済	▲ 1,027
配当金の支払	▲ 708

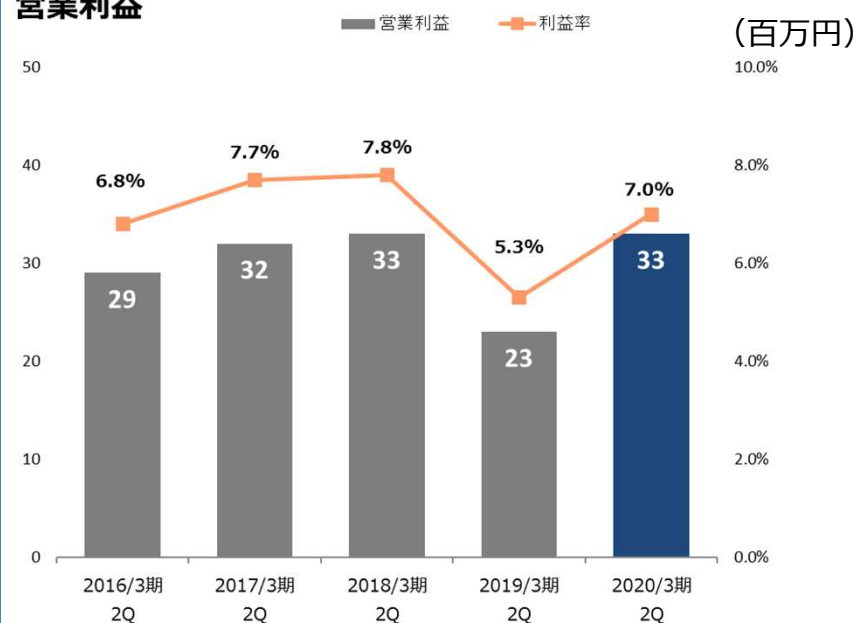
第2四半期業績推移 (2016年3月期～2020年3月期)



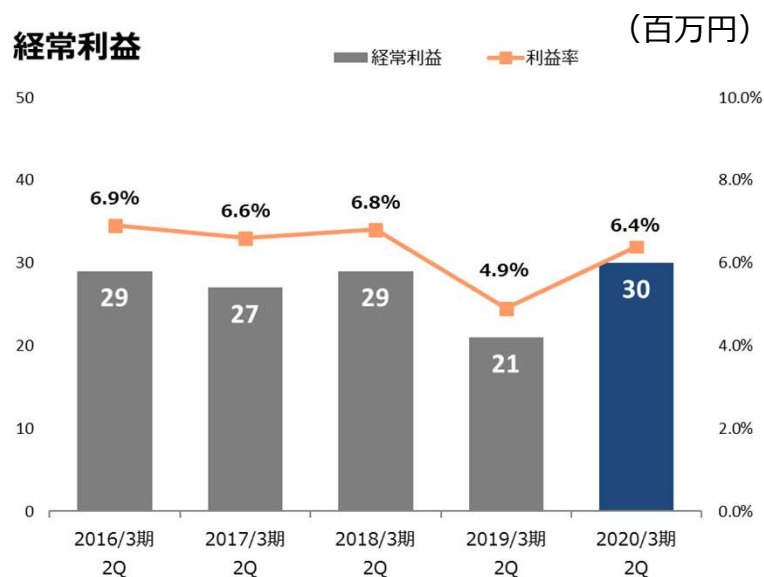
売上高



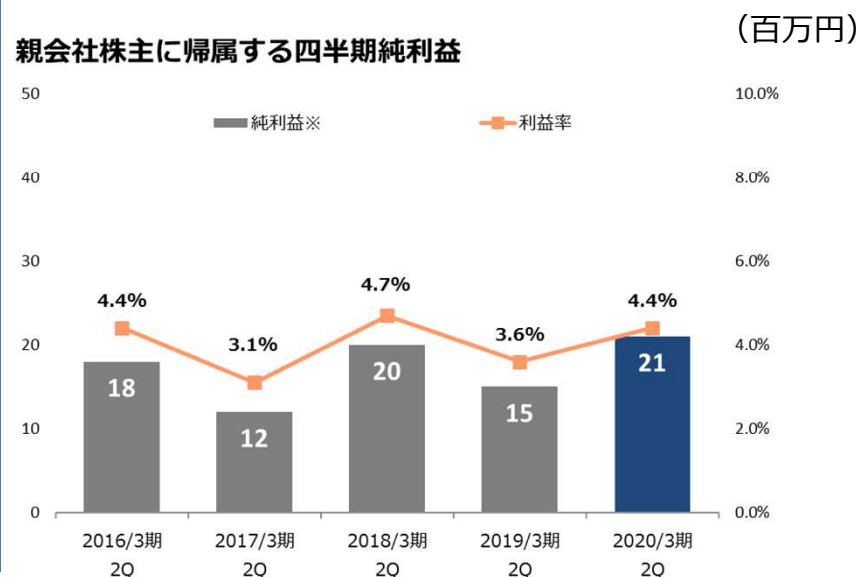
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



中期経営計画のセグメント別売上高・営業利益



(百万円)		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期	
		実績	%	予想	%	当初計画	%
国内食品事業	売上高	58,597		59,000		63,000	
	営業利益	5,768	9.8%	5,300	9.0%	6,450	10.2%
	家庭用食品	売上高	13,938	13,500		16,500	
	業務用食品	売上高	21,733	22,500		23,000	
	加工食品用原料等	売上高	22,925	23,000		23,500	
国内化成品 その他事業	売上高	6,686		6,800		7,000	
	営業利益	732	11.0%	700	10.3%	600	8.6%
海外事業	売上高	26,113		32,500		28,500	
	営業利益	▲ 1,061	-	1,200	3.7%	1,500	5.3%
	改良剤事業	売上高	15,541	15,500		17,700	
	食品事業	売上高	10,571	17,000		10,800	
調整額 (セグメント間消去)	売上高	▲ 1,508		▲ 1,300		▲ 1,500	
	営業利益	▲ 386		▲ 400		▲ 550	
合計	売上高	89,888		97,000		97,000	
	営業利益	5,052	5.6%	6,800	7.0%	8,000	8.2%